

教育長	部長	課長	係長	係

会 議 録

会議名	知立市文化芸術推進会議
-----	-------------

令和5年8月18日	開催場所	知立市図書館 視聴覚室 15時～16時30分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、近藤博子、栗林昌弘、三宅隆弘、松崎保義、丹羽真由美、野畑知美、永井淳子、越智さや香、川上陽子、David Hunt、岡松良典 (藤澤幸兄、田原園子委員は欠席) (敬称略)	
事務局	宇野教育長、寺田教育部長、河合文化課長、井上課長補佐兼文化振興係長、新庄主事	
<p>1. 開会</p> <p>あいさつ 教育長</p> <p>2. 会長 副会長の選任</p> <p>河合課長：知立市文化芸術推進会議規則第2条第1項により会長を互選で定めること、また、同条第2項により副会長は会長が指名することとなっております。</p> <p>初めに会長職の選任をお願いします。どなたか立候補もしくは推薦のご意見はございますか。</p> <p>近藤委員：昨年度に引き続き、会長には清水委員を推薦します。</p> <p>河合課長：会長職に清水委員との推薦がございましたが、いかがでしょうか。それでは、清水委員の会長就任に賛成の方は拍手をもってご承認をお願いします。</p> <p>委 員：(拍手あり)</p> <p>河合課長：ありがとうございました。ご承認いただきましたので、清水委員に会長職をお願いいたします。</p> <p>続きまして副会長につきましては、清水会長よりどなたかご指名をお願いいたします。</p> <p>会 長：宇納委員を指名いたします。</p> <p>河合課長：ありがとうございます。それでは、副会長は 宇納委員 をお願いいたします。</p>		

それでは「次第の3 会長・副会長あいさつ」です。お願いいたします。

3. 会長 副会長あいさつ

会 長：(挨拶)

副会長：(挨拶)

4. 自己紹介

各委員、事務局の紹介

5. 報告事項、意見交換

河合課長：ありがとうございました。

それでは議事に入ります。ここからの進行につきましては、清水会長にお願いいたします。

(1) 令和4年度事業実績報告について

(事務局から説明)

会 長：このことについて、文化会館から何かコメントはありますか。

栗林委員：ここ数年間、「失われた3年間」ということで活動が制限された中でありましたが、逆に「文化って大切なんだ」ということを身に染み込ませた3年間でした。

本日配布された資料については、昨年度のイベントを実施した結果ですが、本日は、現在がどうかということをお伝えしたいと思います。

まず、本日の会場は図書館ですが、駐車場もいっぱい、中に入ると勉強室も学生が多く非常に驚きました。では、パティオはどうかというと、パティオも5月の連休明けから学生向けに勉強スペースの開放を復活させました。これはコロナ禍前にも行っていたことではありますが、現在ほぼゼロの状態です。夏休みになっても特に変化はありません。これは何故かということをお肌感覚で分析しましたが、原因はやはりこの3年間だと思われます。3年間ということは、小学校6年生が高校1年生になってしまう。我々にとっての3年間と学生にとっての3年間は全く違い、本当に一つの時代が変わってしまうんだと感じました。

恐らく、パティオに勉強スペースがあるということをお先輩から後輩に受け継がれずに来たのだと思います。では、これをどうしたらいいかというところではありますが、すぐには難しいですが、時間をかければ徐々に戻ってくるものだと考えています。我々も、皆さんに応援してもらいながらやっていきたいと思っているので、ぜひ今日お見えの方も、パティオに行くと静かに勉強できるということをお声かけていただけたらと思います。

会 長：文化協会はどうでしょうか。

近藤委員： 文化協会は、美術部門・創作部門・茶華道部門・芸能部門の4部門を中心に活動しており、市民をあげて色々と広報活動をしながら、たくさんの方に参加していただけるように工夫をしています。参加者には来ていただいたお礼として、記念品を差し上げることもしています。また、年1回の文化賞・文化奨励賞・文化新人賞授賞式という、知立市の文化人を表彰することも行っています。

コロナの関係で座席を間引いていたため、会場がガラッとして見えることが数年続きましたが、先月行われた「どうする家康スペシャルトーク in 知立」の講演会では、会場が賑やかになっているのを久しぶりに見ました。

やはり、人集めが大事だと実感しました。

知立市文化協会は「つどい花咲く文化協会」というスローガンを掲げており、そのスローガンのもとに集っていただかないと文化に花は咲きません。また、集まって来て下さった人が知立の文化に触れてもらわなければいけません。

知立の文化はこんなことやっているだとか、こんなふうに頑張っているんだといったところ見ていただけるように努力しているところでもあります。各種イベントについては、ぜひ足を運んでいただきたいです。

会 長： 会員の人数はこの3年で変化しましたか。

近藤委員： 1,500人ぐらいいたのが、1,200人になり、現在は1,000人ちょっと、というところです。

部会としては123部会ありますが、会員は高齢化しており、先生自体も指導ができず、お弟子さんもやったださらないとすると、退会されていく方もいらっしゃいます。

子どもは300円、大人は2,000円の会費を取りながら色々な委託金等も活用させていただき、若い人達が知立の文化に触れる機会を多くして、会員を集める方法を具体的に頑張って考えていかなければいけないと思っています。

会 長： リリオ・コンサートホールはどうでしょうか。

三宅委員： リリオもやはりパティオさんと同じように、この3年間公演や貸館も含め来場者が減り、予算的にも非常に厳しくなりました。

しかし、逆にこの3年間をチャンスとして、市民が気軽に来ていただくにはどうしたらいいのかという原点に立ち返ることができました。

今までは結構な料金を出して見に来ていただいたコンサートが多かったのですが、それをあえてワンコインや無料という公演を増やしました。

毎月1回ずつ行っていますが、大体100人ぐらいの来場者で、コンスタントに来てくださっています。お客さんは知立市民が多く、また、出演者も知立在住の方や知立市出身の方を中心にセレクトしています。地元の演奏家の支援・機会の創出という意味でも、それは継続していこうと考えています。

その他に、知立市民先行発売や無料招待なども始めました。これは好評を得ており、今後も、「知立市民でよかった」と思える施策を続けていこうと思います。

会 長 : 地元のアーティストと連携するというのは、これからの大きな流れのような気がします。今後もぜひ展開していただければと思います。
その他ご意見のある方はいらっしゃいますか。

副会長 : 配布の資料のうち、主管課等というところについてお伺いします。
市の部分で、例えば経済課や文化課で、その課の中にはどのような担当があるのでしょうか。
例えば経済課は観光関係を担当している係があるとか。
私たち市民から見た時に、市役所の中には色々な組織があって、どんな活動が連携されているのかいまいち分からないと思っていました。文化課にも図書館と歴史民俗資料館が分かれています、それがひとくくりにされているので、分かりにくいと感じます。
それぞれの課のどこの係が、どんな活動をして、現在はどうか。そして、教育委員会との関係はどうなっているのか。その辺りについて、事務局の方で説明をするとより委員の理解が深まるのではないのでしょうか。

会 長 : 例えば、経済課というのが資料には多く入っていますが、それは経済課の例えばどの担当が多いのでしょうか。

寺田部長 : 経済課には、商工観光係と農政係があり、こちらで出てくるのは商工観光係が主です。
観光という名前が付いているように、例えば、かきつばたまつりや花しょうぶまつりなどが観光事業の一環として行っているものです。

会 長 : 都市計画課はまちづくり系のところでしょうか。

寺田部長 : 都市計画課はいわゆる都市整備や計画、公園管理を担当しています。
ここにあるワクワクウォーキングについては、都市企画係が担当しています。
散歩みちを整備し、各ルートにある歴史的な場所を巡りながら、観光ガイドボランティアの方々にご案内いただき、知立市の魅力を知ってもらおうというものです。

会 長 : 文化課はどうでしょうか。

井上補佐 : 文化課は、図書係と文化振興係があり、文化振興係は、主に歴史民俗資料館の管理運営事業、指定管理の文化会館や文化協会と連携して事業を行っています。
資料1の1ページに書いてある映画会というのは、図書館の方のイベントとして毎月1回開催するものです。

その他は資料館の事業が多く、例えば、百人一首大会ですが、これは4年ぶりに今年開催しました。今までは学校と連携して行っていたものが、文化課直営のものになり、今年から始まったものであります。

会 長 : その他にも、学校教育課、福祉課、長寿介護課、健康増進課など色々ありますが、これはこのシートをそれぞれの課に渡し、そこで書いてもらったものをまとめたものなのでしょうか。

井上補佐 : そうです。

会 長 : これは知立市の文化芸術推進基本計画のすごく特徴的なもので、これだけの課から情報を得て、こういった表にまとめているのは他ではあまりありません。とてもいいことで、大事なことです。

あとは、これからこういった分野のことが多くて、どういう分野が少ないのか。そういった分析をしてもらいたいかもしれないですね。すごく大事なもののなので、これからもぜひ充実させていただきたいと思います。

他にご意見はありますか。なければ、(1) 令和4年度の事業報告は以上とします。続いて、(2) 部活をきっかけとした文化芸術活動の促進について提案者の永井委員から説明をお願いいたします。

永井委員 : 私たち障がいフォーラムの1番の目的は、障がいのある方をより深く理解していただく・知っていただくということですが、そういったことをいきなり投げかけるのではなく、多方面から皆さんに知っていただくという活動をしていきたいと思っています。

資料3-②の一番後ろのところを見ると、「第26回草の根フェスティバル」とあります。これは昨年度の「今を生きる」というサブタイトルをつけて行われたもので、今年度も第27回目を12月に予定しています。

草の根フェスティバルは毎年テーマを決めて進めており、今年のテーマは、「分かり合える輪」。分かり合えるというのは、お互いを知り合うということもありますが、知らないことを知ろう、色々なことを知ろう、という想いが込められています。そんなフェスティバルですが、今年はオープニングステージとして、幕開けに会場を盛りあげてもらおうと思い、知立市内の小中学校にあるマーチング部とか、色々な部活の方たちにお声かけをしようとしていました。

日程や内容を記載した依頼文を、各学校に配布してもらえよう学校教育課を通してお願いしましたが、配る前に、すでに手ごたえのある学校は分かっているからこちらから問いかけてみると言われてしまいました。

私どもが役員会で話し合った時は、学校には色々な部活があるはずだから、どの学校のどのチームを選ぶか大変だという予想があったため、なんだか拍子抜けしてしまいました。

私たちの世代は色々な大会に出場したり、それに向けて練習をするということが盛

んだったので、そのようなイメージでお問い合わせをさせていただいたのですが、結果としては竜北中学校の和太鼓部が出演してくださることになりました。

この背景としては、部活の地域移行があると思います。学校が丸抱えをして、先生が全て顧問を引き受けるというのではなく、専門分野の方が来て行うというような地域移行的なものに変わってきています。

スポーツを含め、子どもの頃に小中学校のクラブや部活で体験をしたことが、将来その子の生きる道にすごく影響が大きいというようなイメージを持っていましたが、昨今そういうことがとても少なくなったと感じ、少し寂しいです。

今は少子化の時代で、子どもを守らなければいけないという支援が色々ありますが、私としては、将来の日本を背負っていく大きな資源である子どもたちにいい体験をたくさんしてほしいという想いがあります。

私の子どもは障がいを持っていて、学ぶことがとても苦手です。

学校の先生から見たり聞いたりすることの学びよりも、直接行って直接触れて体験する方が早いです。

もう 20 数年、知立市内の生活介護を引き受けてくださる事業所に通っていますが、そこありきになっている状態です。新しいことを体験しようと思うと、まず家族が外に連れていかなければならなりません。最近、新しい施設を体験させようと思ひ、いつも過ごしている施設以外の場所でお泊りの体験をしました。

そんな障がいのあるわが子でもそう思いますが、未来を背負う小中学校の子どもさんたちに、これからの部活動はいい体験の場になっているのでしょうか。それによって将来その子達が知立で文化芸術に触れていこうという意識が大きく変わると私は思いますが、皆様はどうお考えになりますか。

丹羽委員： 子ども達が部活動やクラブ活動の体験を通して心が豊かになったり、文化芸術に触れ合っていくということは賛成です。

しかし、現実として、自分が経験した中での感想になってしまいますが、3年間コロナがあったということで、部活動についても継続して指導していくことができる体制ができなかったこと、また、指導者の働き方改革の関係で、教員が指導するということは難しくなっています。

私がいる八ツ田小学校も、以前はマーチングが盛んであり、積極的にやりたいという子どもが多くいました。地域からもぜひ復活させてほしいという要望はあります。指導者と指導する時間、子供たちの安全のことなど様々な問題がありますが、そういうところがきちんとできるのであれば、地域の方たちのご協力を得て、何とかやっていきたいという思いは十分にあります。

会 長： 国も部活動の地域移行については力を入れています。

スポーツ分野は、地域連携の中でも比較的自分が指導したいという人がたくさんいて、一般からの申し込みは多いです。しかし、文化部の方は、意外にそういう人は少ないように思いますが、いかがでしょうか。

教育長 : 学校の部活動は今、地域に移行しようということになっていますが、もともと少子化で、学校自体もスポーツの関係でも、チームが成立しないという所がどんどん増えてきています。さらに今は、「中学校の部活」か「地域のクラブ」のどちらか1チームにしか入れません。中学校の部活と地域のクラブは両方部員として活動できないということです。1チームにしか登録できないので、大会についても、自分が登録した所でしか出場できません。従って、中学校自体は今部活動がすごく減っており、成り立たないというのが現状です。

先ほど話があった和太鼓部も、20人30人いた時もありましたが、今は10人を切っています。竜北中学校の山車文楽部も3人ぐらいで、文楽部の子は、他の部活も兼任してやっているという状況です。

茶華道部については、外部の先生に教えていただいています、これも5・6人。吹奏楽部は、御存知のとおり楽器ごとに専門がありますので、例えばピアノができる人が全て教えられるかといえ、そういうことでもありません。どの曲を選ぶかも、指導者によって変わってくるので、なかなか学校の先生でオールマイティーに指導できるということができないのです。

先ほどの永井委員のお話に関しては、学校で以前のように鼓笛隊や吹奏楽部があるかということ、ほとんどない。募集をするとすごく来てくれるかという期待があったかもしれませんが、実際今そういった状況なので、協力できるのが難しいというのが学校の本音です。

一方で、ある意味いい面かと思いますが、学校の部活以外で、子ども達が自分のやりたいことができるようになったと思います。体操や新体操、フィギュアスケート等。様々なことに取り組んでいく子ども達が増えることが期待されます。文化芸術でも同じことが言えると思います。

永井委員 : 私も今回のことを経験し、時代は変わってきていると実感しました。

それから、もう一つ、保護者や先生の働き方改革について。

小学校は特に保護者の感覚も私たち世代の保護者の感覚とは大きく違うと感じました。なぜかと言うと、オープニングステージを依頼した時に、どんな回答が来るかを想定してアンケートを作ったのですが、その中に、会場までお越しただけですかというような質問も入れました。

先生が引率してくるのは難しい。小学生だとまだ親が連れてこなければいけません。親御さんに頼むにはそういう積極的な協力は今は求められない。送迎バスを1台チャーターし、送り迎えをしなければいけないと思うくらい想定をしていました。

ただし、それも虚しく、さきほど申し上げたような結果になったのですが。

また、和太鼓などの楽器は、学校に置いてあるものを会場のパティオまで運ばなければいけません。昔は地域の大型トラックを持ってる方達が、いいよいいよ、と運んでくださるようなことが多かったように思います。太鼓も大切なものだから、丁寧に扱わなきゃいけない。しかしそれはもう暗黙の了解で、皆さんボランティアで参加して下さっていました。しかし、昨今そういった問題を抱えていると、一般

の方をお願いするよりは、輸送専門業者に頼んだ方がいいだろう。その予算はリングCで負担しようということまで想定していました。

昔の先生はボランティアという感覚で取り組んでくださっていたのでしょうか。

私の子が通っている福祉施設も、休みの日にイベントへ子どもを連れ出す手配をしようと思うと、日曜日はお休みの日で、そうするとその日は休日出勤になるのかということになります。私たちの感覚では、それはクリアしなければならない垣根ではなかったような気がします。今の時代は、日曜日に子どもを引率してフェスティバルを見に来てくださったら、違う日に休んでくださいということをきちんとしなければいけないですよ。学校の先生もそうだと思います。先生の健康を守るためにもそれは必要なことではあります。

それに文句言っているのではなくて、この社会情勢に対応していかなければなりません。こちらも考え方を変えていかなければということを知りました。その対応の仕方をこれから模索していきたいと思います。

会 長 : 恐らく運動部は学校から地域に移行が進んでいると思います。受け皿があるのです。ところが、文化部は、例えばオーケストラ、ブラスバンド、ダンスなど、集団で行うものの受け皿がないまま学校ができなくなっている。では、その受け皿を誰がやるかという辺りで、文化会館や文化協会がやるのか、あるいは民間の会社が作るのか。一体どうなるのかというビジョンを、今考えなくてはいけない時期だと思います。受け皿をどうするのか、問題はそこです。

永井委員 : 以前、私たちのフェスティバルにダンスを踊ってくださるチームを呼んだことがありました。小学生から中学生ぐらいまでのクラブで、自分の子のクラブ発表会のような感覚で親御さんも大勢来ていただいてそれは賑わいましたが、自分の子達が終わるとスーッと引いて行ってしまい、寂しさを感じました。やはり地域に密着している、地元の学校と密接に関係できると1番早いと思います。

副会長 : こういった捉え方はあまりよくないのですが、金銭的に余裕がある方で、例えば市外までミュージカルを習いに行くだとか、そういった事例をよく見ることがあります。けれども問題はそうではないですよ。そういった環境にない子ども達も含めて、学校教育の中で関わったり、地域の中でどう育てるか。そういう問題だと思います。また、そのような施策を市に対して申請していくというのが大事だと思います。効果はわかっているので、それをどうしていくかという問題については、予算化をするのか、もっと違う人脈を作ってくるとか。そういうことを考えていかないと、下の方で喋ってもなかなか進まないとは私は考えます。

会 長 : これは大事な課題なので、1年～数年かけて、新しい知立方式のような提案が出る

ようにご努力いただきたいと思います。

寺田部長： 先ほどから、部活動地域移行が進んでいるという話がありますが、まさしく今、スポーツ活動と文化活動と地域の方で受け皿ができるような形を模索している最中です。進めてはいますが、結論がどうなるのかは、もうしばらくお時間いただきたいです。

会 長： できるだけ早く進められるとよいのですが。

教育長： 現実を言うと1年では難しいです。

先ほども話がありましたが、受け皿の問題で、どこで練習するというところが課題です。

地域の方が来るということになると、校舎をオープンにすることもできないし、別の部活も活動をしている時があります。

他にも、指導者の課題もあります。

和太鼓については、今はもう地域の方に指導していただいています、やはり吹奏楽は難しい。

あと、先ほど話題にあった、子ども達が色々な体験をするというところに関しては、パティオさんが各小中学校、あるいは保育園・幼稚園を回って色々な演劇や音楽鑑賞などをやっています。そういった意味では、以前よりはメニューが増えてきており、子供達が体験することができる機会というのは多くなってきています。

何か発表することや、それに向けて練習すること。部活を何か一生懸命やるというところが今弱いところであり、それについては現在検討中です。

会 長： 是非いろんな方がこの課題に向けて努力をし始めていただけるとありがたいです。それでは(2)の部活きっかけとした文化芸術活動の促進については以上とします。続いて、(3)の事業を盛り上げるためのアイデア・協力について、同じく永井委員お願いいたします。

永井委員： 関連したことになりますが、12月2日に草の根フェスティバルを開催する予定で、今着々と準備を進めています。

私たちはいつも、私たちのことを知ってくださいという問いかけばかりしてきましたが、私たちが開くフェスティバルに来て、障がい者以外のことも知ったといういい機会になると嬉しいと思っています。そこで今回はクイズ大会をフェスティバルの中に入れようと考えています。

例えば障がい者マークを見せて、このマークはどんなマークか知っていますか、という問題の他に、知立市の歴史やちりゅっぴのことを取り入れたクイズをやりたいと思っています。

そこで、例えば、知立まつりに関してはマニアックなことを知っているだとか、ど

こでどう調べたら問題作りに役立つのか等、いろんな分野でご活躍の方をぜひ教えていただきたいです。特に、文化課の方に対しては、このような資料があるから、これを見たらよいというご指導をいただけたら嬉しいです。宣伝も兼ねて、皆さんにご協力をいただけたらと思っています。

会 長 : このことに対して何かご意見のある方はいますか。

寺田部長 : ぜひ文化課を活用していただければと思います。

永井委員 : 改めて担当者を連れて伺いたいと思います。

会 長 : それでは(3)事業を盛り上げるためのアイデア・協力については以上とします。次に次第6その他として、各施設のイベントの情報提供等をお願いいたします。

三宅委員 : 各種公演のチラシをお配りしています。

パティオ・リリオ夏休みお楽しみ企画については、昨年から合同でチラシを作っています。

8月27日までは、パティオ・リリオ・観光交流センターを回ると缶バッジがもらえるスタンプラリーを開催していますので、ぜひご参加ください。

8・9・10月の公演については、先ほど申し上げたように500円のワンコイン公演を毎月行っています。知立の方や西三河の方を中心に出演していただいています。8月の公演については知立市民の方を無料招待しており、まだ枠がある状態です。こういった形で市民の方が得した気分で、知立市民でよかったなという体験をしてほしいと思っています。

栗林委員 : パティオ池鯉鮒、文化協会、そしてリリオ三者合同のチラシについては、文化を発信するこの3団体が力を合わせないといけない、そういう趣旨で作られたチラシです。

重点施策5にもあるように、情報の発信方法が今1番問題ではないかと考えています。

今まさに紙媒体で皆様にお渡ししましたが、様々な場所にチラシを置いてもほとんど減らないのが現状です。ではどうしたらよいのか。SNSと言われても、なかなか見てくれません。知れば来ていただけるかと思うのですが、届けるべき人に届かないというジレンマがあります。

今日も色々とチラシをお持ちしましたが、是非こういった活動を皆様から広げていただければ嬉しいです。

三宅委員 : リリオコンサートホールから追加です。

この4月から観光交流センターの指定管理者の指定を受けています。

観光情報の発信の他に、ちりゅっぴの着ぐるみの管理などを行っているので、また

ご確認いただきたいと思います。

会 長 : 次第6その他 は以上とします。
その他に、全体的なことでご意見のある方はいらっしゃいますか。

副会長 : 先日、岐阜市にあるぎふメディアコスモスに行ってきました。
その中にある中央図書館の一角にYAコーナーがあったのですが、そのすぐ隣には
学習席や児童のエリアがあり、子どもたちが本をただ見るだけでなく、その空間
を楽しめるような作り方がされていました。
図書館の話になってしまいますが、知立市ももう少し工夫し、スペースのデザイン
や若者視点のコーナーなどの空間作りをされるとよいのではないのでしょうか。
パティオについても、先ほどお話がありましたが、学生たちが勉強するならば、そ
ういった空間作りという点を踏まえて考えることができると思います。

会 長 : 知立もこれから色々な改修があるかもしれませんが、そういうことに対しても、様々
な情報を仕入れておくとういと思っています。
その他何かご意見のある方はいますか。無ければ、進行を事務局に戻します。

6. 閉会